

【委員会における議論のポイント】

今回の格付け結果は、B評価が1名、C評価が4名、F評価が4名と、評価が大きく二分されることとなった。

多くの委員が、本報告書の水準は一定程度に達しているとは評価しているものの、以下の諸点については、評価が分かれた。

(1) 「外部調査チームの独立性・中立性」については、多くの委員が問題視している。

危機管理に関するコンサルティング・アドバイザリー業務を提供しながら、他方で、独立性の高い調査をするという自己矛盾を抱えており、「内部調査の外部委託」であって「外部調査」ではないという指摘も含め、独立性・中立性は認められないという評価がなされている。

(2) 「専門性」の欠如を、多くの委員が問題視している。

北海道大学の教授が調査に助力したようだが、調査委員会の委員として名を連ねているわけではなく、どの程度専門性の補強になったかは明らかではない。

(3) 原因究明がなされたか、真因に迫っているかという観点については、評価が分かれた。

「技術的に作れないものを製品化した」という事案の本質に踏み込んでいるという積極的な評価がある反面、「独立性・中立性」や「専門性」を欠いている社外調査チームの原因究明が正鵠を射ているかどうかは判断できないという評価もなされた。

(4) 本報告書の公共財としての価値についても、今後の同種不祥事に警鐘を鳴らすものという積極的評価と、踏み込み不足で公共財的な価値が認められないという評価に分かれた。

以上